

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38070700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	愛媛県大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市の神南山のふもとにあり3つのフロアをもつグループホームである。 ・洋風の建物で建物からの眺めは雄大となっている。緑に囲まれ静かな環境の中で利用者様は生活されています。各フロアにも行き来しながら過ごされている。 ・職員が介護職員初任者研修の講師をして地域に介護の方法など貢献出来るようにしている。 ・職員は利用者様と信頼関係を築き感謝の気持ちを忘れない様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神南山の山すその高台にあり開設11年目を迎えた事業所である。3ユニットの3階建ての建物からは四季折々の風景を眺められ、敷地内には散歩コースもあり、自然豊かな環境の中で季節を感じながら利用者は生活を送ることができる。代表者は医師で、利用者の受診や往診、日頃の健康管理、相談など協力関係が築かれており、安心感がある。利用者の重度化は進んでいるが、管理者は今後利用者一人ひとりが楽しみを持って笑顔で生活していけるように、さらに個別ケアの充実を目指している。良好なチームワークで利用者を支援できるように、職員同士が意見や要望を話し合いながらサービスの向上に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星城

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏 名 井上喜代香

評価完了日 平成 25 年 9 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・フロアに理念を掲げている。理念を踏まえ実践に繋げるようにしている (外部評価) 法人理念と事業所理念を基にして、ユニット毎に職員が話し合い、年間目標を作成している。理念はフロアに掲示して確認することができ、毎月のカンファレンスで実践できているか職員間で話し合い、意識してケアにつなげていけるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・日常的には出来ていない。散歩などの時には挨拶している。 (外部評価) 地域の回覧板に事業所便りを入れて、地域住民に事業所の様子を周知するよう努めている。毎年の地域清掃へ職員が参加している。また、地域の保育園児が訪問してくれたり、事業所で年末餅つきをして近隣に餅をおすそわけするなど、積極的に地域との交流を図っている。毎年開催する事業所の夕涼み会は、利用者や家族のほか、地域住民も参加するにぎやかな行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・地域の方々との交流は少ない。運営推進会議で活動を報告してる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・2ヶ月に1回開催している活動や評価など報告し意見は聞いている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、区長、民生委員、小学校長、公民館長、他のグループホーム職員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では、事業所の報告や課題について意見交換を行っている。回覧板に事業所便りを入れる案は、運営推進会議で出された意見から実現したものであり、会議での意見が事業所の運営に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議の構成員として参加頂き関係を持っている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、日頃から事業所や利用者の相談をするなど関わりを持っており、協力体制が構われている。市の開催するグループホーム協議会では、市内の他のグループホームの管理者と意見交換や事業所の課題について話し合い、他の事業所を見学し合うなど相互の協力関係があり、より良い事業所を目指している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・身体拘束についてのマニュアルを作成し拘束のないケアや安全面に配慮しながら工夫している。	
			(外部評価) 身体拘束防止マニュアルを作成しており、職員全員が研修を重ねて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中は開放しており、落ち着いた利用には声かけや見守りを行い、安全面に配慮しながら抑圧感のない暮らしを支援している。言葉での拘束についても職員同士が意識して注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・利用者の変化に気付け職員で情報を共有している 研修に参加して周知をするようにしたい	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・制度の理解は不十分である。研修や勉強会で周知出来るようにしたい	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・事前に見学や訪問して頂き疑問に対応している 事前調査も行い説明をするようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・意見箱の設置をしている。 面会時などにも聞くようにしている。	
			(外部評価) 家族の訪問時に、職員から声かけをして日々の利用者の様子を伝え、意見や要望を言いやすいように努めている。なかなか訪問できない家族には、電話連絡で利用者の体調面や様子を伝え、毎月請求書に手紙を同封するなど工夫をしている。また、家族会を開催しており、多くの参加者を得てさらに充実した会になるように、今後は行事と合わせて開催したり、ユニット毎に開催することを検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・業務カンファレンスで意見を改善したい事等管理者会で話し合ったり、それを職員に報告するようにしている。	
			(外部評価) 毎月のカンファレンスなどを利用して、職員は管理者に意見や要望を伝えることができる。また、管理者は夜勤業務も行うなど現場で職員と一緒に働いており、日頃から意見や要望を伝えやすい環境にある。管理者は日頃から職員の声を大切にしており、長期間充実して働くことのできる事業所となるように努めている。職員から出された意見は、管理者が法人の管理者会議などで本部に伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・有資手当をつけ向上心が持てるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・習熟度に応じた研修に参加し知識を高めるようにしている。介護職員初任者研修を受ける事も出来る	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・交流をする事が少ないが、他施設を見学する等して交流の場を持つようにしたい	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・本人のはなしや希望を傾聴しケアプランに取り入れるようにしている。声かけや話方に留意し関係作りに努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・入居前に事前調査や見学に来て頂くなど関係作り をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ・事前調査を行い何が必要か把握しけあに繋げるよう 対応するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) ・利用者様のこれまでの経験や知識を参考に出来る 範囲の事をして頂き感謝の気持ちをもって関係を 築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・面会時や必要に応じて手紙などで報告し関係性を 心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ・面会に来て頂き関係性が途切れない様にしている 馴染みの場所には出かけていない。 (外部評価) 馴染みの場所や人間関係は、利用者や家族から情報を 聞き把握している。年賀状のやりとりや知人の訪問が 継続できるよう支援している。また、家族の協力を得 てお墓参りに出かけたり、外出時に生家の近くに寄っ たりするなど、今までの関係継続ができるように支援 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・一人ひとりの個性を把握し支え合う場面作りをするようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・利用者様が長期入院した場合や亡くなられて契約終了となる事があり継続的にはできていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・日頃の会話の中から希望やヒントでカンファレンスで活用している。 (外部評価) 日々の会話や利用者と1対1になる入浴時などに落ち着いて利用者の話を聞き、思いや意向を把握するようにしている。重度化に伴い、思いを伝えにくい利用者もいるが、表情や動作、生活歴などから、思いや意向を汲み取るように努めている。	利用者の思いや意向、生活歴は介護記録に記録しているが、過去に記入したものは職員間の把握に時間を要する。新任職員にも利用者の思いや暮らし方の希望、人物像が一目で把握できるような記録の方法を検討することを望みたい。また、再度利用者の視点に立ち、一人ひとりの思いや意向を振り返り、職員全員で話し合うなどの取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・事前調査を行い情報収集している。馴染みの物や生活歴をかぞくや本人から聞きケアに活かせるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・バイタルサインチェックを行い身体状況に変化、気づきを記録に残すようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) ・月1回のケアカンファレンスを行い意見の交換を して計画に取り入れ共有している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映した介護計画を、利用者毎 の担当職員と計画作成担当者が作成し管理者が確認し ている。3か月に1回モニタリングを行うほか、毎月、 現状に合った介護計画になっているか利用者毎に 職員全員で話し合いをしている。毎日記入する介護記 録は介護計画の目標と連動して記録できる様式になっ ており、職員は常に介護計画を意識してケアを実践し ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) ・利用者の日頃の変化や気づきを個別に記録してい る。 利用者の声や言動も記録し計画の見直しに役立てて 行くようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) ・往診の対応や必要に応じてかかりつけ医の受診 の送迎を行うようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) ・地域資源との協働の取り入れがうまくできていない	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ・月2回の往診と必要に応じて利用者の変化に対応 しており適切な医療が受けられるようにしている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族が希望するかかりつけ医を聞く ようにしている。協力医が月2回の往診で健康管理を しており、協力医への受診は職員が同行することか ら、利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。 また、協力医との協力体制が整備されており、利用者 は安心して生活を送ることができる。眼科などの専門 医は、家族の協力を得て受診することができ、受診内 容によっては職員も同行して日頃の利用者の様子を伝 え、受診内容の詳細を把握するように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ・看護師に状態の変化や気づきを伝え個々に受診や 往診の指示を貰っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ・入院までの経過や生活の状況を情報提供し治療の 参考にして頂いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・終末期に関する指針を定め契約時に説明するよう にしている。必要に応じて変化があれば家族の希望を 聞き対応するようにしている。	
			(外部評価) 看取り指針があり、入居時に説明をして利用者や家族 の意向を聞いている。看取りの研修は行ったことはあ るが、実際に看取り支援を経験した職員は少なく、不 安を感じている職員もいる。今後は、利用者の看取り 支援の希望がある場合には、協力医と連携をとりなが ら利用者や家族が安心して納得のいく終末期を迎える ことができるように、職員のスキルアップを目指して いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・勉強会や構習をうけて実践出来るようにしているがすべての職員が全員とはいえない	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・避難訓練を行うようにしているが、定期的にするまでに至らず職員全員が周知出来ていない事もある。 (外部評価) 消防署の指導を得て避難訓練を実施している。地震を想定した訓練も行い、今後の課題を運営推進会議で話し合いをしている。災害時に備え、近隣住民に協力依頼をしている。また、備蓄品や非常用品の用意を検討している。	様々な災害を想定して、どのような方法で利用者を避難誘導するかなど個別の避難方法を具体的に職員全員で話し合い共有して、いざという時に確実に避難できるように訓練を重ねることが望ましい。災害時の協力依頼をしている近隣住民にも、再度役割を具体的に確認するなど、協力体制を整備していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・誓約書を交わし個人除法の取り扱いに注意している声かけや声のト音をさりげなく行うようにしている。 (外部評価) 特に排泄時や入浴時などは利用者の羞恥心に配慮している。日頃から利用者一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。利用者の呼び方は、基本は敬称で呼んでいるが、昔から呼び慣れた名前の方がコミュニケーションがうまく図れる場合があり、家族に相談して同意を得て使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・利用者のペースに合わせた対応をして自己決定出来るように働き掛けるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・身体介護の必要な利用者もありここの希望に沿う事が難しくなっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・さりげない声かけで清潔に心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・食事の準備や片づけ等を一緒にしている。	
			(外部評価) 献立は法人内の事業所の職員が持ちまわりで立てている。下準備や後片づけなど、利用者ができることを職員と一緒に楽しみながら手伝っている。偏食のある利用者には、栄養面も配慮しながら気持ち良く食事ができるように調理法や盛り付けを工夫している。利用者一人ひとりが食事が楽しい時間となるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・個々の摂取量や食べやすい大きさを把握しており体調や状況に応じて調整している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・食後の歯磨きやうがいを声かけして行うようにしている。義歯の洗浄も行い清潔を保つようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・身体介護がある利用者は自立した排泄は難しいが排泄パターンを把握しさりげない声かけをしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その日の体調や状況に合わせた排泄支援をしている。なるべくトイレ誘導をして、利用者がトイレで排泄できるように見直しを行っている。トイレ誘導を行うことにより、紙パンツ使用の必要がなくなり、自立支援につながった利用者もいる。オムツや紙パンツに頼りすぎない排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・運動をしたり水分量のチェックを行っている。慢性的な便秘傾向には処方による薬で対応する事もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・個々の体調に等に合わせた入浴が出来るようにしている。	
			(外部評価) 利用者は週3回を基本として入浴することができ、利用者の希望に応じて、毎日入浴をすることもできる。利用者の重度化に伴い、職員2人体制で入浴介助を行う場合もあり、安全に安心して入浴ができるように努めている。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し、気持ち良く入浴することができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・睡眠パターンを把握するようにし休息もとれるようにしている。安眠、安楽なしせいがとれるよう体位交換もしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・薬の説明や医師による指導により薬の用法など注意している。説明書を添付して分かるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・役割をもっている方には出番が出るように声かけを行うようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・日常的に外出は出来ていない。 (外部評価) 車いすの利用者が増えてきているが、利用者の希望を聞きながら花見やドライブ、買い物に出かけることができるよう支援している。事業所の敷地内には広々とした芝生の散歩コースがあり、日頃からゆっくり散歩を楽しみながらベンチでくつろいだり、季節を感じながら外気浴をすることができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・自己管理出来ない事が多い為管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・電話や手紙のやり取りなど出来る事が困難である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・ 混乱の無い音に配慮するようにし、室温や換気に留意している。	
			(外部評価) 明るいきりびんの大きな窓からは、四季折々の風景を眺めることができる。畳のスペースもあり、利用者は思い思いの場所でゆっくりとくつろげるようになっている。また、カウンターキッチンから利用者の様子を見守ることができ、居心地良く過ごせるように空調の調整などにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・ 中庭にベンチがありくつろげるようにしている。畳スペースで利用者同士会話が出来るようになっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・ 馴染みの物をもってきて写真を貼ったりして混乱を招くような物は置かない様にして工夫している。	
			(外部評価) 居室にはベッドと洋服ダンス、洗面台が備え付けてある。居室には利用者の使い慣れたものを持ち込むことができ、馴染みのある落ち着いた空間となるように工夫している。また、大きめの窓があり、利用者は緑豊かな山々を眺めながらゆっくり過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・ トイレの場所や居室が解るように工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38070700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	愛媛県大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市の神南山のふもとにあり3つのフロアをもつグループホームである。 ・洋風の建物で建物からの眺めは雄大となっている。緑に囲まれ静かな環境の中で利用者様は生活されています。各フロアにも行き来しながら過ごされている。 ・職員が介護職員初任者研修の講師をして地域に介護の方法など貢献出来るようにしている。 ・職員は利用者様と信頼関係を築き感謝の気持ちを忘れない様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神南山の山すその高台にあり開設11年目を迎えた事業所である。3ユニットの3階建ての建物からは四季折々の風景を眺められ、敷地内には散歩コースもあり、自然豊かな環境の中で季節を感じながら利用者は生活を送ることができる。代表者は医師で、利用者の受診や往診、日頃の健康管理、相談など協力関係が築かれており、安心感がある。利用者の重度化は進んでいるが、管理者は今後利用者一人ひとりが楽しみを持って笑顔で生活していけるように、さらに個別ケアの充実を目指している。良好なチームワークで利用者を支援できるように、職員同士が意見や要望を話し合いながらサービスの向上に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム星城

(ユニット名)

2階

記入者(管理者)

氏 名

井上喜代香

評価完了日

平成 25 年 9 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・共有理念はあり、それを踏まえてケアに繋がっている。	
			(外部評価) 法人理念と事業所理念を基にして、ユニット毎に職員が話し合い、年間目標を作成している。理念はフロアに掲示して確認することができ、毎月のカンファレンスで実践できているか職員間で話し合い、意識してケアにつなげていけるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・散歩の際に挨拶したり地域の清掃や夕涼み会等に見来て頂いている。	
			(外部評価) 地域の回覧板に事業所便りを入れて、地域住民に事業所の様子を周知するよう努めている。毎年の地域清掃へ職員が参加している。また、地域の保育園児が訪問してくれたり、事業所で年末餅つきをして近隣に餅をおすそわけするなど、積極的に地域との交流を図っている。毎年開催する事業所の夕涼み会は、利用者や家族のほか、地域住民も参加するにぎやかな行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・地域の方の協力は充分ではないが、少しでも地域貢献出来るようにしたい	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・会議で話し合った内容を記録した物を掲示しいつでも見れるようにしておりサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、区長、民生委員、小学校長、公民館長、他のグループホーム職員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では、事業所の報告や課題について意見交換を行っている。回覧板に事業所便りを入れる案は、運営推進会議で出された意見から実現したものであり、会議での意見が事業所の運営に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議などで意見交換し協力関係を築いている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、日頃から事業所や利用者の相談をするなど関わりを持っており、協力体制が構われている。市の開催するグループホーム協議会では、市内の他のグループホームの管理者と意見交換や事業所の課題について話し合い、他の事業所を見学し合うなど相互の協力関係があり、より良い事業所を目指している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・研修での内容を職員で周知したりマニュアルを作成している。	
			(外部評価) 身体拘束防止マニュアルを作成しており、職員全員が研修を重ねて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中は開放しており、落ち着いた利用者には声かけや見守りを行い、安全面に配慮しながら抑圧感のない暮らしを支援している。言葉での拘束についても職員同士が意識して注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・危険の早期発見、職員間、入居者間のストレスの軽減、家族などの面会時も気にするようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修などで勉強したり職員間で話し合い理解を深めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居時に家族・身元引受人の方に十分に説明し理解納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・意見箱を設置したり面会時に話をするようにして意見、要望を聞くようにしている	
			(外部評価) 家族の訪問時に、職員から声かけをして日々の利用者の様子を伝え、意見や要望を言いやすいように努めている。なかなか訪問できない家族には、電話連絡で利用者の体調面や様子を伝え、毎月請求書に手紙を同封するなど工夫をしている。また、家族会を開催しており、多くの参加者を得てさらに充実した会になるように、今後は行事と合わせて開催したり、ユニット毎に開催することを検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・ケアカンファレンスや、業務カンファレンスで話し合うようにしている。 (外部評価) 毎月のカンファレンスなどを利用して、職員は管理者に意見や要望を伝えることができる。また、管理者は夜勤業務も行うなど現場で職員と一緒に働いており、日頃から意見や要望を伝えやすい環境にある。管理者は日頃から職員の声を大切にしており、長期間充実して働くことのできる事業所となるように努めている。職員から出された意見は、管理者が法人の管理者会議などで本部に伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・有資手当をつけ資格取得といった向上心を持てるように取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・研修に参加し業務カンファレンスで報告して共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・サービス担当者会に参加、運営推進会議での意見交換をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・本人の希望や不安をきいて本人第一に考えるようにプラン作成する等して関係作りに努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・家族から希望や不安などを聞き家族様の不安が ないようにプランを作り官憲作りを築いていく ように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ・事前調査等でえた情報、アセスメントと職員で 話し合った事等を作成して家族に説明しサービ スをしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) ・利用者と一緒することで関係作りをしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・家族様も関われるサービス内容を作成したり、面会 に来られた際に支援して欲しい事を聞くなどしてい る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ・昔の写真や馴染みのものを持ってきて頂いて活用 するようにしている。 (外部評価) 馴染みの場所や人間関係は、利用者や家族から情報を 聞き把握している。年賀状のやりとりや知人の訪問が 継続できるよう支援している。また、家族の協力を得 てお墓参りに出かけたり、外出時に生家の近くに寄っ たりするなど、今までの関係継続ができるように支援 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・利用者どうしでかいわが出来るように職員が間に入ったりワンクッションおくようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・死亡や長期入院で利用が終了となる事があるが施設を移動しても情報を聞かれたら対応するようにしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・家族様の協力を得る等して出来るだけ希望に添えるようにしている。 (外部評価) 日々の会話や利用者と1対1になる入浴時などに落ち着いて利用者の話を聞き、思いや意向を把握するようにしている。重度化に伴い、思いを伝えるににくい利用者もいるが、表情や動作、生活歴などから、思いや意向を汲み取るように努めている。	利用者の思いや意向、生活歴は介護記録に記録しているが、過去に記入したものは職員間の把握に時間を要する。新任職員にも利用者の思いや暮らし方の希望、人物像が一目で把握できるような記録の方法を検討することを望みたい。また、再度利用者の視点に立ち、一人ひとりの思いや意向を振り返り、職員全員で話し合うなどの取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・事前調査・本人からのアセスメントうあ面会時に情報を得るように努め職員間で共有し活かすようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・毎日のバイタルチェックや日誌などでの申し送りで職員が一人一人に関わって情報把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) ・月1回のケアカンファレンスで話し合って相談、 モニタリング等をいかし状況変化に都度対応する ようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映した介護計画を、利用者毎 の担当職員と計画作成担当者が作成し管理者が確認し ている。3か月に1回モニタリングを行うほか、毎月、 現状に合った介護計画になっているか利用者毎に 職員全員で話し合いをしている。毎日記入する介護記 録は介護計画の目標と連動して記録できる様式になっ ており、職員は常に介護計画を意識してケアを実践し ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) ・介護記録、業務記録に残し確認したら確認印をして 共有するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) ・利用者の状態変化に応じてアセスメントしたり、 家族に相談して職員で話し合い対応するよう にしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) ・保育園児との触れ合いがある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ・主治医の往診が月2回あるが家族、本人の希望する 病院がある場合は協力頂き受診している。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族が希望するかかりつけ医を聞く ようにしている。協力医が月2回の往診で健康管理を しており、協力医への受診は職員が同行することか ら、利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。 また、協力医との協力体制が整備されており、利用者 は安心して生活を送ることができる。眼科などの専門 医は、家族の協力を得て受診することができ、受診内 容によっては職員も同行して日頃の利用者の様子を伝 え、受診内容の詳細を把握するように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ・看護師に状況を報告し状態によって受診するよう にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ・情報提供をおくり情報を交換したり見舞いに行き 状態を聞くようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・入居時に看取りについて説明し緊急時希望等を話し して主治医や看護師に方針を相談し対応するよう にしている。	
			(外部評価) 看取り指針があり、入居時に説明をして利用者や家族 の意向を聞いている。看取りの研修は行ったことはあ るが、実際に看取り支援を経験した職員は少なく、不 安を感じている職員もいる。今後は、利用者の看取り 支援の希望がある場合には、協力医と連携をとりなが ら利用者や家族が安心して納得のいく終末期を迎える ことができるように、職員のスキルアップを目指して いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・ 応急手当の講習を受けているが定期的に行えていない	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・ 避難訓練や近隣の助けをお願いして連絡網を作成して対応するようにしているが、協力できるよう訓練も必要と考える。 (外部評価) 消防署の指導を得て避難訓練を実施している。地震を想定した訓練も行い、今後の課題を運営推進会議で話し合いをしている。災害時に備え、近隣住民に協力依頼をしている。また、備蓄品や非常用品の用意を検討している。	様々な災害を想定して、どのような方法で利用者を避難誘導するかなど個別の避難方法を具体的に職員全員で話し合い共有して、いざという時に確実に避難できるように訓練を重ねることが望ましい。災害時の協力依頼をしている近隣住民にも、再度役割を具体的に確認するなど、協力体制を整備していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・ さりげない対応や職員同士の会話に気をつけるようにしている。何かして頂いたら感謝の言葉を掛けるようにしている。 (外部評価) 特に排泄時や入浴時などは利用者の羞恥心に配慮している。日頃から利用者一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。利用者の呼び方は、基本は敬称で呼んでいるが、昔から呼び慣れた名前の方がコミュニケーションがうまく図れる場合があり、家族に相談して同意を得て使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・ 日常生活の中で選択肢を作り自己決定をする場面を作るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・ひとり一人のペースを大切にし希望を聞き行うようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・自分自身で出来るように工夫している。 介助が必要な方もおられる為困難な面もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・食事作りの簡単な事をして頂いたり一緒に片づけなどするようにしている。 (外部評価) 献立は法人内の事業所の職員が持ちまわりで立てている。下準備や後片づけなど、利用者ができることを職員と一緒に楽しみながら手伝っている。偏食のある利用者には、栄養面も配慮しながら気持ち良く食事ができるように調理法や盛り付けを工夫している。利用者一人ひとりが食事が楽しみな時間となるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・個々の食事量や水分量を把握するようにしている。 好き嫌いの把握もしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・個々の状態で介助や義歯の洗浄を行い清潔に努めている。義歯洗浄剤の使用をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・排泄パターンを把握し誘導や声かけを行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その日の体調や状況に合わせた排泄支援をしている。なるべくトイレ誘導をして、利用者がトイレで排泄できるように見直しを行っている。トイレ誘導を行うことにより、紙パンツ使用の必要がなくなり、自立支援につながった利用者もいる。オムツや紙パンツに頼りすぎない排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・水分を多く取ってもらったり運動や体を動かすなど工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・好きな時間に入れるよう本人に聞きながら行うようにしている。	
			(外部評価) 利用者は週3回を基本として入浴することができ、利用者の希望に応じて、毎日入浴をすることもできる。利用者の重度化に伴い、職員2人体制で入浴介助を行う場合もあり、安全に安心して入浴ができるように努めている。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し、気持ち良く入浴することができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・好きな時間に寝てもらおうようにしている。休息を取り入れるなどしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・薬の説明書を見れるようにして把握するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・家事の輝手伝いや話を楽しんでもらえる時間を作るようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・家族様にも協力頂き外出できるようにしている。 (外部評価) 車いすの利用者が増えてきているが、利用者の希望を聞きながら花見やドライブ、買い物に出かけることができるよう支援している。事業所の敷地内には広々とした芝生の散歩コースがあり、日頃からゆっくり散歩を楽しみながらベンチでくつろいだり、季節を感じながら外気浴をすることができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・買い物時に支払いをしてもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・出来る方には取り次ぐようにしているが困難になってきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・不快な臭いがする事のないように換気や日差しの向きなど気をつけている。	
			(外部評価) 明るいきりびんの大きな窓からは、四季折々の風景を眺めることができる。畳のスペースもあり、利用者は思い思いの場所でゆっくりとくつろげるようになっている。また、カウンターキッチンから利用者の様子を見守ることができ、居心地良く過ごせるように空調の調整などにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・畳にあがり座イスに座ったり休んで頂くなどして頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・本人の馴染みの物を持参して居室作りをするようにしている。	
			(外部評価) 居室にはベッドと洋服ダンス、洗面台が備え付けてある。居室には利用者の使い慣れたものを持ち込むことができ、馴染みのある落ち着いた空間となるように工夫している。また、大きめの窓があり、利用者は緑豊かな山々を眺めながらゆっくり過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・バルコニーで花や野菜を育てたり洗濯物が干せるようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38070700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	愛媛県大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市の神南山のふもとにあり3つのフロアをもつグループホームである。 ・洋風の建物で建物からの眺めは雄大となっている。緑に囲まれ静かな環境の中で利用者様は生活されています。各フロアにも行き来しながら過ごされている。 ・職員が介護職員初任者研修の講師をして地域に介護の方法など貢献出来るようにしている。 ・職員は利用者様と信頼関係を築き感謝の気持ちを忘れない様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神南山の山すその高台にあり開設11年目を迎えた事業所である。3ユニットの3階建ての建物からは四季折々の風景を眺められ、敷地内には散歩コースもあり、自然豊かな環境の中で季節を感じながら利用者は生活を送ることができる。代表者は医師で、利用者の受診や往診、日頃の健康管理、相談など協力関係が築かれており、安心感がある。利用者の重度化は進んでいるが、管理者は今後利用者一人ひとりが楽しみを持って笑顔で生活していけるように、さらに個別ケアの充実を目指している。良好なチームワークで利用者を支援できるように、職員同士が意見や要望を話し合いながらサービスの向上に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム星城

(ユニット名)

3階

記入者(管理者)

氏 名

徳生ナナコ

評価完了日

平成 25 年 9 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・いつも見えるところに掲示しており、行事計画や日頃のケアに繋げている。 ・フロアの理念もある。 (外部評価) 法人理念と事業所理念を基にして、ユニット毎に職員が話し合い、年間目標を作成している。理念はフロアに掲示して確認することができ、毎月のカンファレンスで実践できているか職員間で話し合い、意識してケアにつなげていけるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・通勤時や植木の水やり時の挨拶に気をつけている。 ・地域の行事（清掃）に参加している。 ・回覧版にホームの新聞を入れてもらっている。 (外部評価) 地域の回覧板に事業所便りを入れて、地域住民に事業所の様子を周知するよう努めている。毎年の地域清掃へ職員が参加している。また、地域の保育園児が訪問してくれたり、事業所で年末餅つきをして近隣に餅をおすそわけするなど、積極的に地域との交流を図っている。毎年開催する事業所の夕涼み会は、利用者や家族のほか、地域住民も参加するにぎやかな行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・運営推進会議では話し合っているが具体的には行っていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・2ヶ月に一回開催して会議での意見を参考にしサービスの向上に役立てている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、区長、民生委員、小学校長、公民館長、他のグループホーム職員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では、事業所の報告や課題について意見交換を行っている。回覧板に事業所便りを入れる案は、運営推進会議で出された意見から実現したものであり、会議での意見が事業所の運営に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議や介護相談員の来所がある。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、日頃から事業所や利用者の相談をするなど関わりを持っており、協力体制が構われている。市の開催するグループホーム協議会では、市内の他のグループホームの管理者と意見交換や事業所の課題について話し合い、他の事業所を見学し合うなど相互の協力関係があり、より良い事業所を目指している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・ドアに音がるようにして利用者の様子を確認して いて施錠はしていない。 ・研修を受けているが全員ではない。研修報告として 周知するようにしている。	
			(外部評価) 身体拘束防止マニュアルを作成しており、職員全員が研修を重ねて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中は開放しており、落ち着いた利用者には声かけや見守りを行い、安全面に配慮しながら抑圧感のない暮らしを支援している。言葉での拘束についても職員同士が意識して注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・全員はないが研修を受けている。 ・研修報告をして全員で話し合い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・全員が理解出来るようにしたい	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・不安や疑問点等を充分に聞き納得を得られるように個別の配慮を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・家族来訪時や電話で個別に意見や要望を聞きとるように努力している。 ・意見箱を設置している。	
			(外部評価) 家族の訪問時に、職員から声かけをして日々の利用者の様子を伝え、意見や要望を言いやすいように努めている。なかなか訪問できない家族には、電話連絡で利用者の体調面や様子を伝え、毎月請求書に手紙を同封するなど工夫をしている。また、家族会を開催しており、多くの参加者を得てさらに充実した会になるように、今後は行事と合わせて開催したり、ユニット毎に開催することを検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・月一回の全体での業務カンファレンスをしている。 又、各ユニットでケアカンファレンスを開催している	
			(外部評価) 毎月のカンファレンスなどを利用して、職員は管理者に意見や要望を伝えることができる。また、管理者は夜勤業務も行うなど現場で職員と一緒に働いており、日頃から意見や要望を伝えやすい環境にある。管理者は日頃から職員の声を大切にしており、長期間充実して働くことのできる事業所となるように努めている。職員から出された意見は、管理者が法人の管理者会議などで本部に伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・有資手当を付資格といった向上心を持てるように取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・研修に参加し報告している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・法人外グループホームとの交流を持ち総合訪問をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・事前調査を行い本人を十分に話をし思いを理解し見学などもして頂くなど馴染みになるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・事前調査を行い家族の思いを理解出来るように 関係作に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ・その方にあった支援に合うサービスを受けられるよ うな対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) ・本人が出来る事は出来るように支援し職員から ”ありがとう”と言えるような関係を築いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・面会時には家族の思いを聴き取れるような会話に 務め電話や面会等家族の支援もお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ・行き慣れた所買い物に行き知人に会って会話を する事がある。御家族以外の友人や知人の面会も ある。 (外部評価) 馴染みの場所や人間関係は、利用者や家族から情報を 聞き把握している。年賀状のやりとりや知人の訪問が 継続できるよう支援している。また、家族の協力を得 てお墓参りに出かけたり、外出時に生家の近くに寄っ たりするなど、今までの関係継続ができるように支援 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・トラブルにならない様に関係作りをしながら良好な関係になるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・入院時に情報提供を行っている。 ・お見舞いに行くようにしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・日々の会話や行動により本人の思いを把握するようにしている。 (外部評価) 日々の会話や利用者と1対1になる入浴時などに落ち着いて利用者の話を聞き、思いや意向を把握するようにしている。重度化に伴い、思いを伝えるににくい利用者もいるが、表情や動作、生活歴などから、思いや意向を汲み取るように努めている。	利用者の思いや意向、生活歴は介護記録に記録しているが、過去に記入したものは職員間の把握に時間を要する。新任職員にも利用者の思いや暮らし方の希望、人物像が一目で把握できるような記録の方法を検討することを望みたい。また、再度利用者の視点に立ち、一人ひとりの思いや意向を振り返り、職員全員で話し合うなどの取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・事前調査や面会時に聞いている。 ・聞き取りの難しい時もあるが少しずつアセスメントを行い把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・全職員が把握できるように申し送りをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ・日々の会話や面会時の会話によりアセスメントをおこなっており月1回のカンファレンスで話しあっている。 ・3ヶ月に一回モニタリングを行い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映した介護計画を、利用者毎の担当職員と計画作成担当者が作成し管理者が確認している。3か月に1回モニタリングを行うほか、毎月、現状に合った介護計画になっているか利用者毎に職員全員で話し合いをしている。毎日記入する介護記録は介護計画の目標と連動して記録できる様式になっており、職員は常に介護計画を意識してケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ・個別の記録を行い申し送りの徹底、情報交換を共有し 実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ・体調に合わせた受診や往診依頼を行っている。 その都度家族への連絡や報告も行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ・1ヶ月に1回の介護相談員の来所がある。 ・園児との触れ合い	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ・かかりつけ医がおり往診が可能である。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族が希望するかかりつけ医を聞く ようにしている。協力医が月2回の往診で健康管理を しており、協力医への受診は職員が同行することか ら、利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。 また、協力医との協力体制が整備されており、利用者 は安心して生活を送ることができる。眼科などの専門 医は、家族の協力を得て受診することができ、受診内 容によっては職員も同行して日頃の利用者の様子を伝 え、受診内容の詳細を把握するように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ・看護師に状態やようすを伝えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ・相談出来る体制がある。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・看取りに関する指針がある。 ・家族や医療関係者と連携し共に取り組んでいる。	
			(外部評価) 看取り指針があり、入居時に説明をして利用者や家族 の意向を聞いている。看取りの研修は行ったことはあ るが、実際に看取り支援を経験した職員は少なく、不 安を感じている職員もいる。今後は、利用者の看取り 支援の希望がある場合には、協力医と連携をとりなが ら利用者や家族が安心して納得のいく終末期を迎える ことができるように、職員のスキルアップを目指して いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・救命の講習を受けているが定期的に行えていない	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・避難訓練を行っている。 ・地域の方の連絡網を作成している (外部評価) 消防署の指導を得て避難訓練を実施している。地震を想定した訓練も行い、今後の課題を運営推進会議で話し合いをしている。災害時に備え、近隣住民に協力依頼をしている。また、備蓄品や非常用品の用意を検討している。	様々な災害を想定して、どのような方法で利用者を避難誘導するかなど個別の避難方法を具体的に職員全員で話し合い共有して、いざという時に確実に避難できるように訓練を重ねることが望ましい。災害時の協力依頼をしている近隣住民にも、再度役割を具体的に確認するなど、協力体制を整備していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・プライバシーや尊厳を守るようさりげない対応に努めている。 (外部評価) 特に排泄時や入浴時などは利用者の羞恥心に配慮している。日頃から利用者一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。利用者の呼び方は、基本は敬称で呼んでいるが、昔から呼び慣れた名前の方がコミュニケーションがうまく図れる場合があり、家族に相談して同意を得て使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・日々の会話や行動によりその人を把握しておりその人らしく自己決定出来るように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・その方の体調や性格等その人に合ったケアに取り組んでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・出張理容室を利用している。 ・出来る方は起床時に整容出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・一部の利用者を準備や片づけを一緒に行っている。 (外部評価) 献立は法人内の事業所の職員が持ちまわりで立てている。下準備や後片づけなど、利用者ができることを職員と一緒に楽しみながら手伝っている。偏食のある利用者には、栄養面も配慮しながら気持ち良く食事ができるように調理法や盛り付けを工夫している。利用者一人ひとりが食事が楽しい時間となるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・その人に合った支援を行っている。 ・食事チェック、水分チェックを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後に行っている。 ・週1回義歯洗浄剤を使用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・排泄のパターンを出来るだけ理解しトイレでの排泄が出来るように支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その日の体調や状況に合わせた排泄支援をしている。なるべくトイレ誘導をして、利用者がトイレで排泄できるように見直しを行っている。トイレ誘導を行うことにより、紙パンツ使用の必要がなくなり、自立支援につながった利用者もいる。オムツや紙パンツに頼りすぎない排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・飲食物を工夫している。 ・水分のチェックを行い排便を促すようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・順番等出来るだけ希望に添えるように努めている。 ・入浴拒否の方の場合は声かけのタイミングを工夫してゆっくり出来るようにしている。	
			(外部評価) 利用者は週3回を基本として入浴することができ、利用者の希望に応じて、毎日入浴をすることもできる。利用者の重度化に伴い、職員2人体制で入浴介助を行う場合もあり、安全に安心して入浴ができるように努めている。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し、気持ち良く入浴することができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・昼寝をしたり、テレビを見たい方その方にあつた支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・すぐに確認できるようにファイルにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・趣味や好きな事が出来るように環境作りに努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・散歩や買い物の支援をしている。 ・家族と外出される方もいる。 (外部評価) 車いすの利用者が増えてきているが、利用者の希望を聞きながら花見やドライブ、買い物に出かけることができるよう支援している。事業所の敷地内には広々とした芝生の散歩コースがあり、日頃からゆっくり散歩を楽しみながらベンチでくつろいだり、季節を感じながら外気浴をすることができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・買い物時は自分で支払いするように声かけしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・年賀状を出せるようにしていたが難しくなってきた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・車椅子の方が増え窮屈であるが工夫して対応している。	
			(外部評価) 明るいきりびんの大きな窓からは、四季折々の風景を眺めることができる。畳のスペースもあり、利用者は思い思いの場所でゆっくりとくつろげるようになっている。また、カウンターキッチンから利用者の様子を見守ることができ、居心地良く過ごせるように空調の調整などにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・居室以外で一人に慣れるところはないが思い思いに過ごせるように支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・個人の枕や布団等使いなれたものを使用している。	
			(外部評価) 居室にはベッドと洋服ダンス、洗面台が備え付けてある。居室には利用者の使い慣れたものを持ち込むことができ、馴染みのある落ち着いた空間となるように工夫している。また、大きめの窓があり、利用者は緑豊かな山々を眺めながらゆっくり過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・居室が分かりやすいように名前を書き目印になる物を付けている。	